



スイカ

F1 マダーボール

糖度の特に高い

ラグビーボール型小玉スイカ



スイカ

F1 マダーボール

糖度の特に高い ラグビーボール型小玉スイカ

品種特性

1. 果長20cm、果重2.2kg内外、鮮緑の地に鮮明な細縞をつけた楕円形小玉種で変形果や空洞果になりにくい。
2. 果肉は濃紅桃色でムラなく均一に発色する。繊維は少なく適度にしまり、糖度は12-14度(BRIX)と、とても高く食味は極めて良い。
3. 果皮は薄く皮際まで食べられる。
4. やや大葉でつるは太め、低温伸長性が良く、草勢は旺盛でつる持ちが良い。
5. 低温弱光線下での雌花の着生と着果性が良い。

栽培のポイント

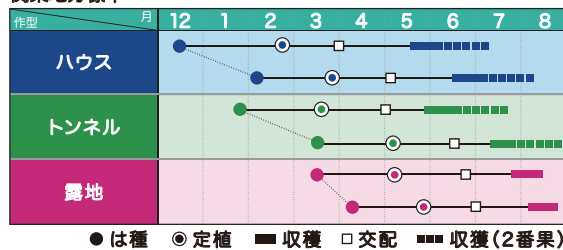
- 小玉品種は一般に種子が小さく貯蔵養分が少ない。接木活着率を上げて芯止まりを防ぐため、双葉が十分に展開して葉色が濃くなってから接木する。
- 台木は比較的草勢のおとなしい品種を用いると栽培しやすく果実の品質も良い。
- 若苗定植すると草勢が強くなりすぎる恐れがある。10.5cm以上のポットを使用し50日以上かけて大苗育苗するのが望ましい。
- 元肥の施肥量は10aあたりの成分量で、窒素4-6kg、リン酸20kg、加里10kgが標準となる。草勢の旺盛な品種なので施肥量が多すぎるとつるボケになる危険がある。大玉栽培と比べると3-5割ほど施肥量を減らす。
- 定植時のベッドの最低地温は16°C以上を確保して、定植苗の地温はそれ以下に馴化させておく。
- 栽培様式は一方向4本整枝3果着果(株間75cm)、5本整枝4果着果(株間90cm)が標準となる。つる戻しを行い18~22節前後の雌花に一斉着果させる。家庭菜園などでは主枝10節位で摘心し放任で栽培してもよい。
- 着果前後は昼温30°C~夜温20°C内外で管理し、着果後2週間位から徐々に温度を下げてじっくり成熟させる。

- 交配時には着果日がわかるように目印を付け、収穫前に必ず何果か試し切りして収穫適期の日数を判定する。肉質が軟らかく収穫適期の幅が狭い品種なので穫り遅れにならぬよう2日おきにこまめに収穫を行なう。
- 二番果栽培を行なう場合は、本栽培で病虫害を発生させぬように特に予防・防除管理を徹底する。

作型図

- ハウス促成栽培から各種のトンネル栽培まで幅広く栽培できる。
- 成熟日数は関東標準で5月中旬収穫のハウス栽培で交配後40日前後、6月中旬収穫のトンネル栽培で36日内外が目安となる。
- 露地栽培は5月下旬以降の定植で栽培する。

関東地方標準



ヴィルモランみかど株式会社

〒267-0056 千葉県緑区大野台1-4-11
TEL:043-311-6100 FAX:043-205-5503

vilmorinmikado.jp



掲載内容の複製やダウンロード、写真の無断転載を禁止します。